

| 現在の子どもの様子   | ねらい  | 行事   | 自己評価   |
|---|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>新しいクラスに慣れ、できることは自分でしようとするが、生活習慣についてはまだ援助や確認が必要である。</li> <li>春の自然物(花、虫)に興味や関心を示している</li> <li>好きな遊びを見つけ友だちと楽しむが、相手に思いを伝えられずトラブルになることもある。</li> <li>自分の思い通りに相手が出来ない時に、叩いたりつねったりする時がある。</li> <li>季節の歌や、手遊びを楽しんでいる。</li> <li>戸外で元気に体を動かして遊んでいる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>保育者や友だちと一緒に好きな遊びを楽しめるようにする。</li> <li>園生活の仕方や決まりが分かり、身の回りのことを自分でしようとする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>英語であそぼう 11日 26日</li> <li>幼児集会 16日</li> <li>避難訓練 17日</li> <li>おはなし会 18日</li> <li>クラス懇談会 19日</li> <li>歯科健診 30日</li> </ul> <p>地域との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>散歩時には、挨拶をする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>連休が明けてからも、4月当初よりは笑顔で登園する姿が多く見られていた。その姿から、保護者の表情も明るく安心して預けている様子が伝わり、信頼関係が少しずつ築く事ができたと実感している。</li> <li>戸外に多く出かける機会と取り入れた事で、道路の歩き方や横断歩道の渡り方などの交通ルールが浸透している。</li> <li>クラスの流れがスムーズになり、子どもたち自身も身の回りの事を自分でやることに自信や楽しみを感じている。一人ひとりに合わせて過剰な介助にならないように意識し、達成感を味わえる様にしていった。</li> </ul> |

| 内容  | 環境構成  | 保育士の配慮   | 取り組みの状況と保育士の振り返り   |
|---|---|--|--|
| <p>養護(生活)教育(健康・人・環・言・表)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>手洗い、うがいの大切さを知り進んで行えるようにする。</li> <li>衣服の調節をして、気持ちよく過ごせるようにする。</li> <li>身の回りのことを自分でしようとする。</li> <li>衣服の着脱を自分でしようとし、後始末の仕方がわかるようにする。</li> <li>戸外遊びを通して体を十分に動かすと共に、水分、休息を十分に取る。</li> <li>友だちと好きな遊びを楽しむ。</li> <li>身近な自然に触れ、感心を持つ。</li> <li>困っていることや欲求を言葉で伝えようとする。</li> <li>季節の歌や製作を楽しむ。(絵画、折り紙等)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>手洗いやうがいに関する絵本や紙芝居を準備する。</li> <li>身の回りのことがしやすい環境になっているかを再度確認する。</li> <li>子どもたちが着脱するのに十分なスペースと時間を確保する。</li> <li>こまめに水分補給ができるように準備する。</li> <li>玩具を手に取りやすく、片付けやすいよう整備する。</li> <li>外遊び、散歩を充実させ自然の移り変わりに気づけるようにする。</li> <li>子どもたちが話しやすい雰囲気を作っていく。</li> <li>子どもたちが興味を持って取り組めるよう教材を準備する。(絵本、紙芝居等)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりの気持ちに寄り添いながら優しく関わっていく。</li> <li>手洗い場で見守りながら、手洗いうがいの仕方を伝えていく。</li> <li>時間がかかっても最後まで見守り、自信や意欲につなげられるようにする。</li> <li>水分補給をするよう声をかける。</li> <li>遊びに夢中な子にも水分を補給する事を伝え、援助する。</li> <li>一緒に片付けをして、片付けの仕方を知らせていく。</li> <li>好きな遊びを楽しめるよう、見守ったり援助したりする。</li> <li>子ども達と同じ目線で関わるようにする。</li> <li>子どもたちの話を丁寧に聞き会話する。</li> <li>保育士と一緒に歌ったり踊ったりし楽しさを共有する。</li> <li>イメージを持って活動に取り組めるよう、絵本などで導入し意欲を高める。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>保育室へ入室する際は手を洗うという流れは子どもたちにも浸透してきている様子が見られる。トイレと職員がつく等でじっくりと手洗いに関われない時が多かったので今後はそういった場面もしっかりと保育者がついて関わっていきたい。</li> <li>午睡前の着替え等は自分でカバンを用意し保育者が介助することなく着替え、自分でしまえる児も多くなってきた。</li> <li>麦茶はジャグに入れ使い方を教えると自分たちで好きな時に飲めるようになった。当初は使える楽しさから水分の摂取量が増え、トイレに行く回数が増える等もあったが次第に落ち着き、飲む以外にも保育者がコップを洗ったりする動作にも興味を示すようになる。</li> <li>転んで泣いたりしている時も保育者が状況を把握していても子どもからの発言を待って自分の思いを伝えていけるように側に寄り添ったり少し落ち着くまで待つなどの工夫をした。</li> <li>製作はてんとう虫を折り紙で作り、散歩時等も積極的にてんとう虫を探る姿が見られるようになった。</li> </ul> |
| <p>食育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>楽しい雰囲気の中で保育者や友だちと食事をする。</li> <li>フォーク、食器の正しい持ち方を確認する。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>トマト、きゅうりを育てながらその成長と、食することを楽しみにする。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりの様子に気を配り、声をかけて援助する。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>一口食べられる達成感から完食したお皿を保育者に見てもらいたい気持ちへと変化してきた。完食できた時は大いに褒めるなどして食事に対して気持ちを高めていきたい。</li> </ul>  |